

【今週の注目疾患】

《レプトスピラ症》

2026年第36週に県内医療機関から1例の届出があった。患者は70代の男性であり、海外渡航歴はない。

2006年から2026年第36週までに届出があった9例の概要は以下のとおり。

性別は、男性8例、女性1例だった。年代別は、70代が4例で最も多く、次いで10代・60代が各2例、20代が1例だった。発現した主な症状別（発生届の記載による、複数記載あり）は、発熱が9例で最も多く、次いで筋肉痛8例、結膜充血・腎不全が各7例、黄疸・蛋白尿が各6例、出血症状が2例だった。推定感染原因別（発生届の記載による、複数記載あり）では、水系感染が5例で最も多かった。推定感染地域別は、国外感染例が3例で、残り6例は国内または不明であった。

本症は、台風や大雨後に報告されることがあるため、今後の発生動向に注意が必要である。

レプトスピラ症は病原性レプトスピラを病原体とする感染症である。レプトスピラは、げっ歯類をはじめとし、野生動物や家畜などの腎臓に保菌され、尿中に排菌されることで、環境（水や土壌）へ微生物が供給される^{1,2)}。レプトスピラ症の潜伏期間は、5日から14日程度で、突然の悪寒、発熱で発症する。軽症型では発熱や筋肉痛などの風邪様症状のみで軽快する。重症型（ワイル病）では黄疸や出血、腎障害などが起こり、死亡することがある。抗菌薬での治療が可能であり、国内で承認されたワクチンはない^{1,3)}。

感染経路としては、げっ歯類をはじめとする保菌動物の尿で汚染された水や土壌に、傷や粘膜が接触することによる。豪雨や台風による洪水後の発生や大雨後の沼地や河川での作業、農作業による感染が各地で報告されているほか、国内では、水辺でのレジャーを介した感染例も報告されている。対策としては、感染動物の血液や尿、汚染された水や土壌と傷口や粘膜が接触しないよう適切な服装をする^{1,3,4)}。

■参考・引用

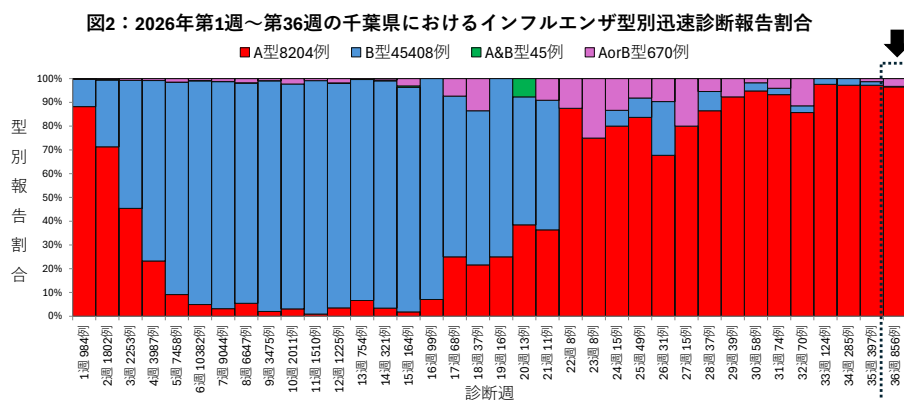
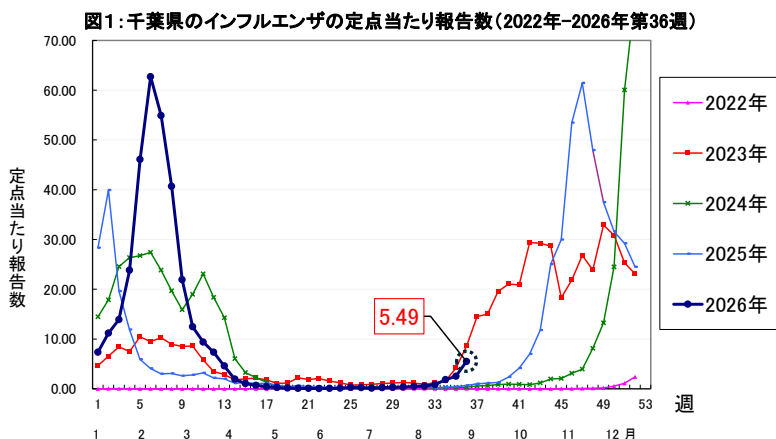
- 1) 国立健康危機管理研究機構：レプトスピラ症
<https://id-info.jihs.go.jp/infectious-diseases/leptospirosis/index.html>
- 2) 一般社団法人日本感染症学会：レプトスピラ症
<https://www.kansensho.or.jp/ref/d84.html>
- 3) 国立健康危機管理研究機構：IASR2016年6月号 レプトスピラ症2007年1月から2016年4月
<https://id-info.jihs.go.jp/niid/ja/leptospirosis-m/leptospirosis-iasrtpc/6518-436t.html>
- 4) 国立健康危機管理研究機構：IASR2023年2月号 レプトスピラ症の発生状況
<https://id-info.jihs.go.jp/niid/ja/typhi-m/iasr-reference/11809-516r06.html>

《インフルエンザ》

2026 年第 36 週における定点当たり報告数は前週の 2.51 人から増加して 5.49 人となった（図 1）。2026 年 9 月 4 日には今シーズン（2026/2027 シーズン）のインフルエンザ様疾患による学級閉鎖の発表を県及び船橋市が行った^{1,2)}。

年齢群別では、2026 年第 36 週に報告のあった計 988 例のうち、10 歳未満が 455 例（46%）と最も多く、次いで 10 代 198 例（20%）、50 代 81 例（8%）、40 代 78 例（8%）であり、20 歳未満で患者報告数全体の約 7 割を占めた。

県内定点医療機関の協力による迅速診断結果では、856例中A型826例(96.5%)、B型2例(0.2%)、AorB型28例(3.3%)であり、A型が大半を占めていた(図2)。



インフルエンザはインフルエンザウイルスに感染することによって起こる病気である。38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等の症状が比較的急速に現れるのが特徴であるほか、咽頭痛、鼻汁、咳等の症状も見られる。小児ではまれに急性脳症を発症し、高齢者や免疫力が低下している患者の場合には肺炎を伴うなど重症化する危険性が高い。

予防するための有効な方法としては、(1)こまめな手洗い、(2)十分な休養とバランスの取れた栄養摂取、(3)室内ではこまめに換気、(4)人混みや繁華街への外出を控える、(5)適度な湿度の保持、(6)ワクチン接種、が挙げられる^{1,3)}。

■参考・引用

1) 千葉県健康福祉部健康福祉政策課：インフルエンザ様疾患による学級閉鎖について (令和8年9月4日)

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kenfuku/press/2026/influ-shuudan2026.html>

2) 船橋市：インフルエンザ様疾患の感染拡大防止について

<https://www.city.funabashi.lg.jp/kenkou/kansenshou/001/p112054.html>

3) 千葉県健康福祉部健康福祉政策課：インフルエンザから身を守ろう

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/influenza/influenza-yobou.html>